

	発行 北海道高等学校養護教諭研究会 事務局 北海道札幌北高等学校 〒001-0025 札幌市北区北25条西11丁目 TEL 011-736-3191 FAX 011-736-3193 http://koyoken.satsukita.ed.jp/myks/hyousi.html
---	--

北海道高等学校養護教諭研究会第31回研究協議会 アンケート集計結果

平成28年7月25日と26日の両日開催された北海道高等学校養護教諭研究会第31回研究協議会のアンケート結果です。皆様からのご意見・ご感想は、今後の研究会の運営に役立てていきたいと考えています。ご協力ありがとうございました。高養研ホームページの「参加者の声」にも具体的な意見を掲載していますのでそちらもご覧ください。

【研究協議会に関する項目別の評価】

(人)

	とても 良い	良 い	ふつう	あまり 良くない	良くない	回答なし	合 計
会 場	17	27	14	2	0	0	60
当日の日程	18	31	5	5	1	0	60
講 演 1	30	22	0	0	0	8	60
研究発表	33	23	1	0	0	3	60
情報提供	33	20	5	0	0	2	60
講 演 2	48	9	0	0	0	3	60
運営全般	33	20	5	0	0	2	60

講演1では「思春期のてんかん；診断と治療＝生活上の留意点、周囲のかかわり方」というテーマで、札幌医科大学医学部脳神経外科 越智さと子氏をお招きし、様々な発作型を動画での紹介と共に、診断や治療の概要、思春期に多いてんかん型を主に、日常生活の留意点、周囲のかかわり方、支えと理解の必要性等について、また、講演2では渋谷区男女平等・多様性社会推進委員 杉山文野氏に「性の多様性と学校における対応」と題して、性同一性障害である自身の経験と知識をもとに、性の多様性と学校におけるLGBTに対する配慮、当事者からカミングアウトを受けた際の対応などについて話していただきました。

研究発表は、根室地区より「地域とともに取り組む保健指導～明日の根室を支えていく生徒の育

成を目指して～」と題して、地域の関係機関と連携した保健指導など具体的な素晴らしい実践内容を、根室高等学校 佐々木真夕先生、根室西高等学校 小向ゆみ子先生が発表してくださいました。自らの実践について振り返る良いきっかけになったという感想が数多く寄せられました。

また、最新の情報をわかりやすくまとめた情報提供には、もっと時間をとって欲しかったという要望がとても多くありました。

当日の日程等では、各学校の実情と共に開催日について不都合を感じたという声をいただきました。開催日程については他の研究会の開催日、講師の都合など様々な事情を考慮して決定しています。ご理解いただければ幸いです。

第54回北海道高等学校教育研究大会 第31回養護部会のお知らせ

【主 題】 現代的な健康課題の解決と学校保健活動の推進をめざして

【日 時】 平成29年 1月12日(木) 9:20～

【場 所】 札幌市教育文化会館

(札幌市中央区北1条西13丁目)

電話 011-271-5821

【交通機関】

○地下鉄東西線…西11丁目駅1番出口から5分

○JRバス・中央バス…北1条西12丁目下車徒歩1分

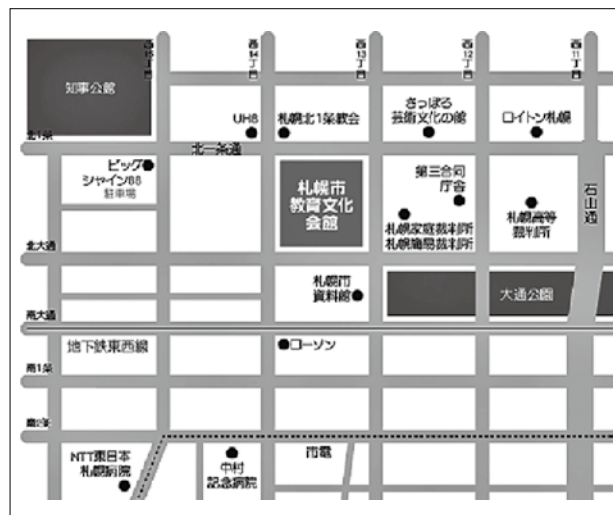
○市電…西15丁目停留所から徒歩10分

【参加申込】

参加申込みは各学校で集約しています。当日会場でも参加を受け付けますが、資料等準備の関係上、できるだけ事前申し込みをお願いいたします。

【日 程】

9:20	9:40	9:50	11:10	11:40	12:00	13:20	15:20	15:30	16:00
受付	開会式	研究発表	情報提供	総会	昼食	講演	閉会式	会場復元	



研究発表

テーマ 『養護教諭の記録の実際とその意義について
～保健室で長期にかかわる生徒の記録から～』

発表者 北海道東川高等学校 養護教諭 杉澤 恵 氏
北海道旭川南高等学校 養護教諭 中山 由美子 氏



要 旨 保健室には「健康診断票」等の公簿の他に、個々の養護教諭が保健室に来室する生徒への対応について独自に作成している様々な「記録」があります。

今回、上川地区の高教研会員等5名は、旭川・富良野地区の高等学校26名の養護教諭を対象に、保健室の「記録」、特に「心身の疾病や悩み、あるいは発達障害等の特性があり、学校生活への不適応や困難性等、養護教諭が長期的支援を必要と判断した生徒の記録(平成27年度)」について調査研究を行いました。

養護教諭が「記録」をどのように捉え、どんな点に留意し、工夫や活用を行っているか、そしてその「記録」は校内組織においてどのように活用されているのか、これらを明らかにするとともに、養護教諭が記録をとおして何を気づき、考え、目指しているのか…養護教諭の「記録」の意義について考えます。

情報提供・助言

テーマ 『学校保健の課題とその対応』

情報提供・助言者 北海道教育庁 学校教育局 健康・体育課 学校保健・体育グループ

主査 島瀬 史子 氏

講演

演 題 『中高生の喫煙及び飲酒行動の実態・関連要因と今後の対策』

講 師 鳥取大学医学部社会医学講座環境予防医学分野 教授 尾崎 米厚 氏

1996年度から継続実施している中高生の喫煙及び飲酒行動に関する全国調査の結果から、その動向と関連要因と明らかにする。周知のとおり中高生の喫煙率及び飲酒率は減少傾向にあるが、男女差の縮小、特定の学校や層に健康に良くない保健行動の集積しつつある実態が認められている。中高生の喫煙や飲酒には家族の影響が強く、睡眠の問題、インターネット依存、食生活等子供たちを取り巻く生活習慣との関連も認められる。民法の成年年齢を18歳に引き下げる議論の中で18歳以上で喫煙や飲酒を認める議論も発生しているが医学的になぜ認められないかについても示す。電子タバコや酒に似せたノンアルコール飲料の急成長など心配な環境が新たに作られている。これらも踏まえ今後の有効であるべき対策について論じる予定である。

【講師略歴】 尾崎 米厚（おさき よねあつ）

- ・1961年 鳥取県倉吉市生れ ・1986年 島根大学医学部卒業 1990年 同博士課程修了
- ・1990年 国立公衆衛生院（現 国立保健医療科学院）疫学部研究員、主任研究官、感染症室長
- ・2000年 鳥取大学医学部衛生学（現 環境予防医学分野）准教授、2012年 同教授

【専門】疫学、公衆衛生学

【研究分野】飲酒・喫煙・その他依存行動についての疫学、がんの疫学、高齢者の介護予防に関する疫学 等

【著書・出版物】「飲酒、今日の小児治療指針（第16版）」（2015年 p741-742）

「疫学・保健統計学」（医学書院 2015年 p7-16,59-64,67-70,75-95,107-141,143-153,183-210）

「日本の公衆衛生システムの特徴および国と地方自治体の役割 ナーシンググラフィカ 健康支援と社会保障②公衆衛生」（メディカ出版 2015年 p22-25）

「疫学 アルコール依存症」（最新医学社 2014年 p20-29）

「地域保健 公衆衛生が見える」（メディックメディア 2014年 p166-171）

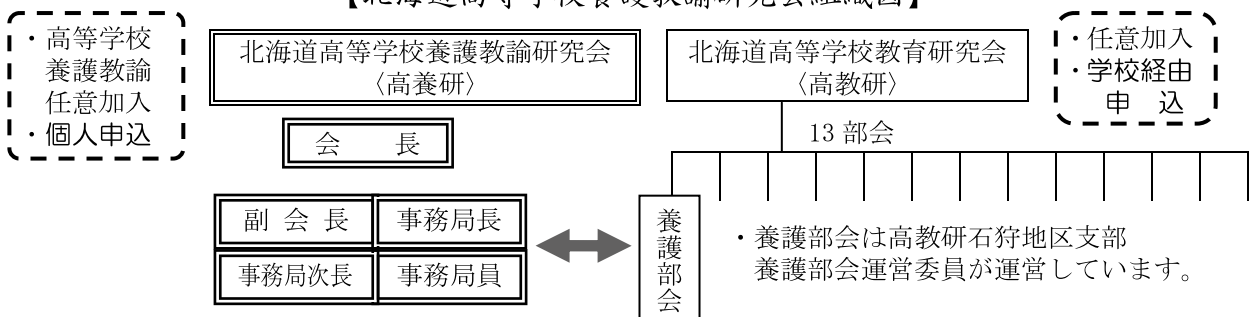
「健康危機管理 公衆衛生実践キーワード」（医学書院 2014年 p117-139）

「わが国の喫煙問題 特定健康診査・特定保健指導における禁煙支援から始めるたばこ対策」（日本公衆衛生協会 2013年 p1-22）

高養研および高教研の加入について

本研究会（高養研）と高教研養護部会は別組織であるため、研究会に加入する場合は各々所定の手続きが必要となります。

【北海道高等学校養護教諭研究会組織図】



会員だより ～「北海道高等学校養護教諭研究会に参加して」

3名の会員の方に意見・感想をいただきました。お忙しい中お引き受けくださり、心より感謝申し上げます。



今年度4月より日高管内の北海道えりも高等学校に採用となりました。本校の全校生徒は95名の小規模校で、中高一貫教育を行っており、ほとんどの生徒がえりも町内から通っています。私自身昨年までは高校の家庭科教員として勤務しており『養護教諭』としてどのように生徒たちと関わっていけば良いか・・・と日々考えながらの毎日でした。また、町内には高校が本校しかいないため、今回北海道高等学校養護教諭研究会に初めて参加させていただき、日々の悩みや課題を同じく高校に勤務する養護教諭の先生方に相談できたこと、またつながりを作る機会になったことにとっても感謝しています。

講演ではてんかん発作や性の多様性、また主事からの情報提供とたくさんのことを学ばせていただき、知識を深めることができました。

研究発表では特に根室での子育てファイル「りんくす・ねむろ」について、中高一貫教育を行っていく中で何か自分の町でも取り組めないだろうか・・・と学校に戻ってから考える機会となりました。

研究会への参加で、日々学び続けていかなくてはと気持ちを引き締め直す機会となりました。ありがとうございました。

北海道えりも高等学校 米村 麻未



今年度4月から十勝管内の帯広北高等学校に採用になりました。前任校は義務教育で、高等学校で勤務するのは初めてでしたので、少しでも知識を深めたいという思いと、高等学校で勤務する養護教諭の先生方との繋がりが欲しいとの思いで参加させて頂きました。「思春期のてんかんについて」の講演では発作の種類毎の薬の違いや、発作の誘因と未然防止の在り方など、より細やかな内容について教えて頂きました。「性の多様性の理解と学校における対応について」の講演では生徒が保健室でLGBTの問題を打ち明けてきたときどのような声掛けをして欲しいのか、生の声で教えて頂きました。また、LGBTの問題を誰にも打ち明けられず一人で抱え、自殺行為に及んでしまう児童生徒が少なくないことを知り、そのような子どもたちをどのように救っていくかについても勉強させて頂きました。とてもわかりやすく、すぐに生徒に還元できる内容で、実り多い研修会になりました。たくさんのアドバイスや素敵なアイデアを頂き、今後自校の生徒にどう還元していくか、自分なりにできることをやっていこうと励みになりました。有難うございました。

北海道帯広北高等学校 小林 留依



北海道釧路湖陵高等学校定時制に勤務して4年目になります。生徒の健康課題は多様化し、いつも、「これで良いのか…」「先手先手でいきたいが後手に回っていないか…」と不安に思う毎日です。今回、案内文書の講演内容を見て、「今聞きたい内容だ!」と思い、終業日と日程が重なっていましたが、初めて参加させていただきました。参加してみると期待以上でした。講演の内容に飛びついたのですが、研究発表・グループワーク・情報提供、全てで勉強になることが沢山あり、吸収させていただきました。

釧路管内から2日間参加したのは私一人で、ほとんどの先生方と初めてお会いする形でした。養護教諭の繋がりを広げていきたいと強く思いました。他校ではどんなことをしているのだろう、どのような対応をしているのだろうと考えることも多いので、今回の機会は本当に貴重でした。その中で他の学校の先生方から性の講演でオスズの講師を教えていただきました。釧路市の事業として思春期保健講座を行っているので、保健師さんに情報を発信しよう、と研究会が終わる前からうずうずしました。自分なりにできることからやってみる、小出しに出せるよう引き出しを持っておく、私の中で実りある研修となりました。ありがとうございました。

北海道釧路湖陵高等学校 上窪 梨華